

このページでは、避難生活での疑問や、除染・補償・賠償に対する質問にお答えします

ご協力ありがとうございました
2月8日 いたて村民ふれあい集会
(福島県文化センター)でお聞きしました



樋之口 清秋さん(草野)

(質問) 避難後妻が病気を患い、手に筋力の低下やふるえがあるため、妻ができなくなった家事をしていますが料理はなかなか大変です。しかし要介護認定はまずは歩行、そして会話や動作で認定されるので、もっと幅広く認定してもらえたらなあと思います。

(回答) 要介護認定の仕組みは、認定申請されると、調査員が調査にかかいます。この認定は、全国一律の基準で評価されるもので、医師の意見書と合わせて、介護認定審査会に送られます。介護認定審査会では総合的な判断を行い、要介護度が決定されます。

家事援助など、要介護度に合わせたサービスについては、村の地域包括支援センター(飯野出張所 ☎024-562-4214)等で相談を受けることができます。専門員が対応しますので、ぜひお気軽にご相談ください。

森永 ミツイさん(前田・八和木)

(質問) 除染が済んで帰村できるようになったら、生まれ育ったふるさとに帰りたくと考えています。けれどやっぱり、帰りたくないと思っている人も多いのかな…と気になります。

(回答) 震災から丸4年が経過しようとしています。除染の進捗を注視しながら、次年度は、避難指示解除時期の検討も進むことと見込まれます。帰村が可能になった時、長期にわたった避難生活をどう整理していくか、解除後の生活拠点をどこにおくかなど、皆さんが新たな課題をお持ちのことと思います。

村民の帰村意向について、村はこれまで国・県との共同で3回、村独自で1回の「住民意向調査」を実施しており、今年1月に行われた調査の結果は間もなく速報が公表される予定です(2月23日現在)。

実際のところ、帰村に関しては「すぐにでも帰りたい」「子どもが小さいため村外で生活を続ける」「家族で意見が分かれている」などさまざまな声が聞かれます。今までの調査結果からみても村外で生活を継続する家庭は少なくないと思われそうですが、一方、村内で新たな営農に取り組みたい、避難先で始めた取り組みを村内で継続したいと考える人もあり、「帰ろう」「帰って復興に取り組みたい」と考えている人がいらっしやることも確かです。

村も今後いっそう村内の環境整備を進め、ふるさとの再生を図っていく考えです。また、すぐには帰れないという方の支援にも可能な限り取り組んでまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



地蔵浄土



「馳走になった」って。「ああん、んちゃ困った」って。「さあ、追っかけて来たんだげんちよも、食っちゃまったんではなんともいながら戻るしかない」。「んじや、そのかわりに宝物やっから」。そうして宝物いっぱい貰って背負って家来たたら、隣の悪い婆さんが、草履片っぽに下駄片っぽ履いで、チツカッタチツカッタ遊び来たんだって。「何だ。こつちでは大した宝物だ。なじよしてこんな宝物、どうしたんだ」って。「いやあ、俺こつちで団子作りしたら、「ロロロ」ってむる穴さ入ってしまつて、そうして追っかける追っかける。追っかけて行ったらちようど地蔵さんの前さ行って、ほうして地蔵さんに聞いたら地蔵さんは、『ちようどお腹すいたでこつちで馳走になつてしまつた』。困つたなあ、こつちで追っかけて来たげんちよ、食っちゃったんではハア帰るしかねえどがっかりしてたら、地蔵さんは『ほんじえは俺の一番の宝物やっから、宝物持つて家さ帰ってくれる』どなつて、そうして家さ宝物持つて帰ってきたんだ」って。

隣の欲たがり婆さんは、穴めどさ無理やり団子押し込んで、無理に転がし転がして、地蔵の前まで来たど。そして地蔵様が「食いだぐねえ」って言うのに口さ団子押し込んで、「宝物くれ」って言ったんだが、貰わんにえが盗んできたんだがなんだが、背負つてきて家さ来てひろげで見たら、ガラクタばつかりのひどいものだったど。

「話者/故・山下ハルヨ(大倉) いたて民話の会発行「飯詰むかしばなし」から転載

結婚おめでとう



氏名	出身地
高橋 翔吾	上飯樋
齋藤 恵	仙台市
佐藤 研太	伊丹沢
三浦 つばさ	二本松市
志賀 勇希	小宮
遠藤 美波	郡山市

いつまでもお幸せに

誕生おめでとう



赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
藤陽 大くん	努・舞	関根・松塚
原田 隆稀くん	正夫・立晶	深谷
高田 啓輝くん	隆広・美香	関根・松塚

すくすくと元気に育ってね

おくやみ

氏名	年齢	行政区
青山 忠男	84	草野
高橋 マツ子	85	二枚橋・須萱
横山 マモル	88	前田・八和木
佐々木 一忠	69	佐須
高橋 忠良	84	上飯樋
大東 喜十郎	87	宮内
北山 子之吉	90	飯樋町

ご冥福をお祈り申し上げます

(1月21日から2月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

先日行われた第60回福島県市町村広報コンクールにおいて、広報いたて11月号が佳作入賞いたしました。いつも取材にご協力いただいている村民の皆さまのおかげです。今後も「伝わる広報」を目指してまいりますので、引き続き広報いたてをよろしく願っています。▼福島市で再開した村の乳幼児健診のひとコマ。不安そうに順番を待つ子が、「ママは受けないの?」と一言。子どもは親の姿をいつも見ているなあと思いつつも、改めて感心していると、健診後の子ども達がお医者さんごっこを始めました。子どもは親はもちろん、周りの大人も見ていると思うと自分の姿にドキッとしました▼魅力ある大人の背中を目指していかねば・・・(木幡)